



平成30年 1月26日

## 戦争の考古学 —岡大考古学の学際的研究②—

「戦争はヒトの本性の一部なのか、そうでなければ戦争の要因とは何か」という、現代社会喫緊の課題に対して、大学院社会文化科学研究科の松本直子教授は、質・量ともに充実した日本考古学のデータをもとに、学際的な共同研究による検討を進めています。古人骨のデータを集成し、暴力による死亡率とその内容を解析し、遺跡数の変化から推定される人口変動や環境変化などのデータと合わせた分析によって、戦争の発生・抑止要因を数理的・考古学的に検討しています。戦争の発生・抑制に関わる要因を具体的に明らかにすることにより、日本列島における歴史の解明とともに、ヒトの本性に関わる普遍的議論にも大きく貢献することを目指しています。

### <導入>

戦争は人間の本性なのか、それとも社会的な要因で発生した人類の歴史における比較的新しい現象なのでしょうか。この問いに答えるには、人類史においてどれくらい頻繁に戦争が行われていたのかを知る必要があります。そのためには、具体的な年代が判明している考古学的な遺跡から出土する人骨に見られる暴力的な受傷痕跡の頻度が重要な手がかりとなります。

### <背景>

人類学や考古学の成果に基づいて、1990年代半ばまでは、狩猟採集社会では戦争は稀であり、農耕の開始による人口増加、土地や水の争奪、社会の複雑化などによって戦争が始まったとする見方が主流でした。しかし、一部の考古学的・人類学的データに基づいて、むしろ文明や国家が発達する以前の社会は暴力的であり（戦争による死亡率約14%）、国家の成立によって戦争は減少しているとする見方が近年台頭し、論争が続いています。このような状況を打開するため、松本教授は、山口大学、東北大学、国立歴史民俗博物館の研究者、博士後期課程の学生とともに、日本考古学の充実した人骨データに基づく共同研究を開始しました。

### <研究内容、業績>

日本列島の縄文時代と弥生時代の遺跡から出土した人骨について、これまで報告されている資料を網羅的に集め、受傷人骨の比率を計算しました（表1）。その結果、縄文時代における受傷人骨の比率は約1%であり、弥生時代における受傷人骨の比率は縄文時代よりは有意に高いですが、それでも約3%程度でした。武器を持つ農耕社会においても、暴力による死亡率がそれほど高くないということは、人間社会の本来の戦争死亡率を14%とし、


**PRESS RELEASE**

戦争は人間の本性とする説、頻繁な戦争によってヒトの利他性が進化したとする説への反証となります。

**<展望>**

現在、集団間暴力の発生に関する要因を具体的に追求するために、人口密度や文化的規範との関係について分析を進めています。本研究の成果として得られる知見は、現代的課題である戦争の回避に関わるものとして国際的・学際的に強いインパクトを与え、人間の本性をめぐる進化論的、哲学的、考古学的な考察にも大きく貢献することができると考えています。また、一般市民にとっても関心の高いテーマであるので、論文だけでなく、シンポジウムや一般講演、書籍などの形で成果を積極的に発表していく予定です。

**表 1 縄文時代・弥生時代の時期ごとの受傷人骨の数と比率**

縄文時代	総数	成人	受傷人骨	受傷人骨 (成人のみ)	成人*	受傷人骨*	受傷人骨 (成人のみ)*	受傷人骨の比率	受傷人骨の比率 (成人のみ)	受傷人骨の比率 (成人のみ)*
早期	113	39	1	1	28	1	1	0.69%	2.56%	3.57%
前期	216	117	0	0	98	0	0	0.00%	0.00%	0.00%
中期	371	172	5	5	97	3	3	1.35%	2.91%	3.09%
後期	944	470	7	7	396	6	6	0.74%	1.49%	1.51%
晩期	932	471	10	10	430	9	9	1.07%	2.12%	2.09%
合計	2576	1269	23	23	1051	19	19	0.89%	1.81%	1.81%
弥生時代	総数	成人	受傷人骨	受傷人骨 (成人のみ)	成人*	受傷人骨*	受傷人骨 (成人のみ)*	受傷人骨の比率	受傷人骨の比率 (成人のみ)	受傷人骨の比率 (成人のみ)*
早期	27	25	6	6	10	5	5	22.22%	24.00%	50.00%
前期	233	156	7	7	115	1	1	3.00%	4.49%	0.87%
中期	2347	1794	70	66	1541	53	49	2.98%	3.68%	3.18%
後期	691	420	17	17	270	15	15	2.46%	4.05%	5.56%
合計	3298	2395	100	96	1936	74	70	3.03%	4.01%	3.62%

**表 縄文時代・弥生時代の出土人骨データと受傷人骨の比率**

\*出土人骨数が10体未満の遺跡を除いたデータ

縄文時代早期：11000-7000年前、前期：7000-5300年前、中期：5300-4400年前、後期：4400-3300年前、晩期：3300-2800年前。弥生時代早期：2800-2600年前、前期：2600-2300年前、中期：2300-1900年前、後期：1900-1700年前。

出典：Nakao, et al. 2016, Nakagawa et al. 2017.

**<参考情報>**

Hisashi Nakao, Kohei Tamura, Yui Arimatsu, Tomomi Nakagawa, Naoko Matsumoto, Takehiko Matsugi 2016.3 Violence in the prehistoric period of Japan: the spatio-temporal pattern of skeletal evidence for violence in the Jomon period. *Biology Letters*. DOI: 10.1098/rsbl.2016.0028

Tomomi Nakagawa, Hisashi Nakao, Kohei Tamura, Yui Arimatsu, Naoko Matsumoto and Takehiko



## PRESS RELEASE

Matsugi 2017.4 Violence and warfare in prehistoric Japan. Letters on Evolutionary Behavioral Science Vol.8 No.1, 8-11.

松本直子 2017「人類史における戦争の位置づけ」『現代思想』2017年6月号、162-174頁  
青土社

中川朋美・中尾央 2017「戦争と人類進化—受傷人骨の視点から」『文化進化の考古学』勁草書房

### 研究助成

サントリー文化財団研究助成「戦争と人間の本性に関する進化考古学的研究」（代表：松本直子）

日本学術振興会（課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業）「歴史科学諸分野の連携・総合による文化進化学の構築」（代表：井原泰雄）

### <略歴>

1968年生まれ。九州大学文学部卒、九州大学大学院文学研究科修了。博士（文学）。レディング大学考古学科客員研究員などを経て現職。

### <お問い合わせ>

岡山大学大学院社会文化科学研究科

教授 松本直子

（電話番号）086-251-7519